

モンゴルの障害者状況

モンゴル;9期生

オンダラフバヤール・チョロンダワ

Undrakhbayar Chuluundavaa

モンゴルの人口、環境、天候に関するブリーフィング

- モンゴルの人口は3,100,000人
- そのうちの4,1%が障害者で、これは約108,070人
- 一年を通して気候の変動は厳しく、冬はマイナス40度になり、夏はプラス40度となる。

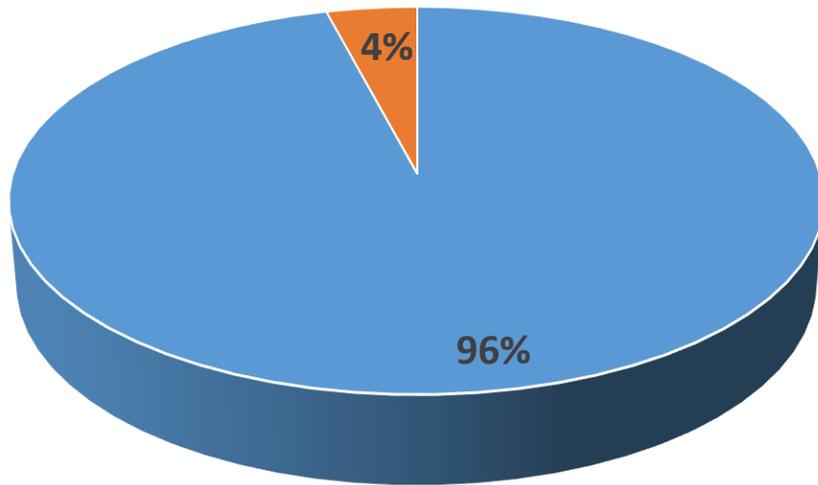


モンゴル障害者数

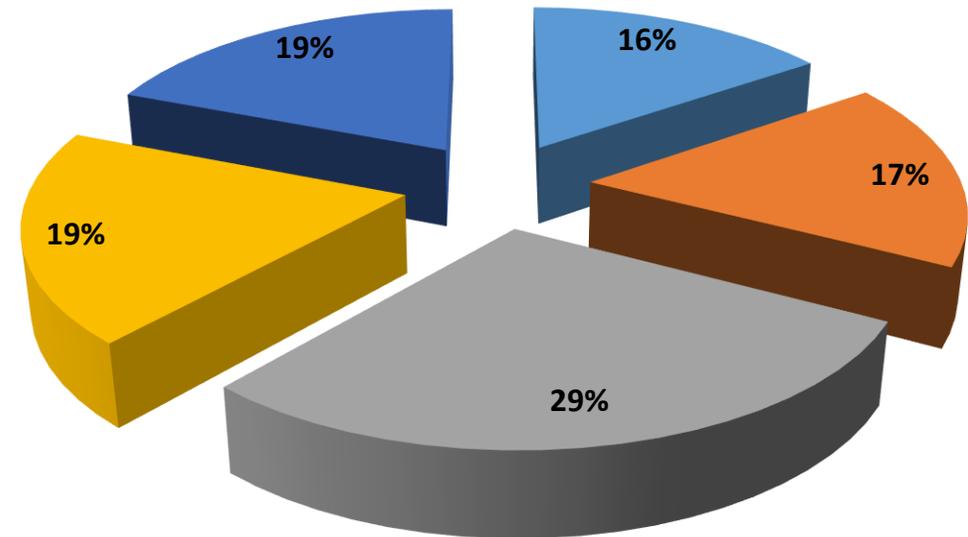
障害者人口

- 視覚障害
- 聴覚障害
- 身体障害
- 精神障害
- 重複障害、内臓疾患障害など

モンゴル人口



- 総人口
- 障害者



社会事情

- モンゴルは1990年に社会主義時代から民主主義に移行。
- 社会主義時代は人権、憲法課題、障害者に関する法律・権利はあったが十分ではない。
- 社会主義システムから移行して、26年経過したが、障害者に関するインフラ問題、法律の対策はいまだ不十分。



政府の政策等

- 障害者に対する政策、法律、プロジェクトを多く実施
- 新しい制度を作る際に、障害当事者の意見を取り入れる場を設けるようになった。 例) 障害者権利法、障害者開発庁など

しかし、、、

- 実施されていることが少ない。
 - 認知がされていない。
 - 使いにくい。
- 例) 大学が入学が無料でもバリアフリー交通が整備されていない。

障害者への教育

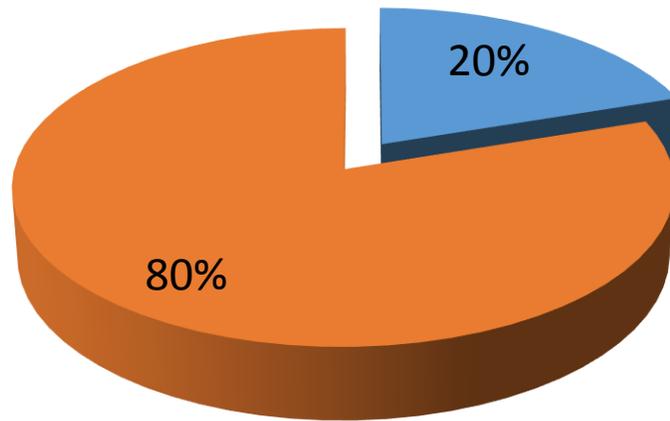
- 基本的には昔のまま。障害者は養護（特別支援）学校へ
- しかし、障害者のための学校はウランバートルにしかない。
- そのため田舎の障害者は一般の学校に通っている。
- インクルーシブ教育への制度が作られ始める。
- 養護（特別支援）学校に関する知識を持った専門家はいるが、インクルーシブ教育の知識を持った専門家がない。
- 法律や制度が出来ても実行されない。

障害者の就職状況と内訳

(2010年のモンゴル国勢調査参考)

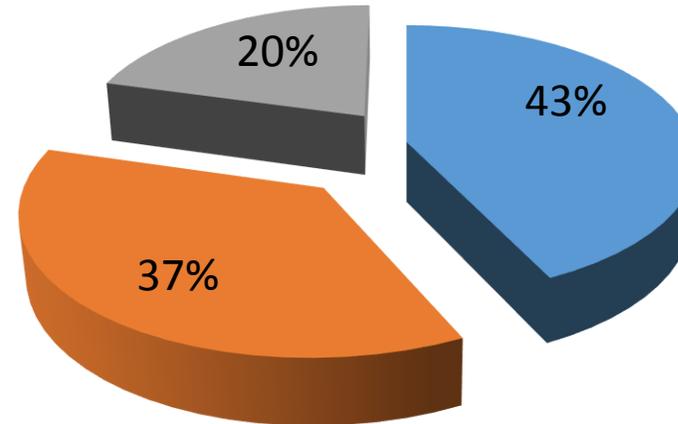
就職が可能な障害者のうち
就職の有無

- 就職している障害者
- 無職の障害者



就職している障害者の職業種

- 自営業・内職
- 会社勤務
- 家族・親戚の手伝い(無賃金)

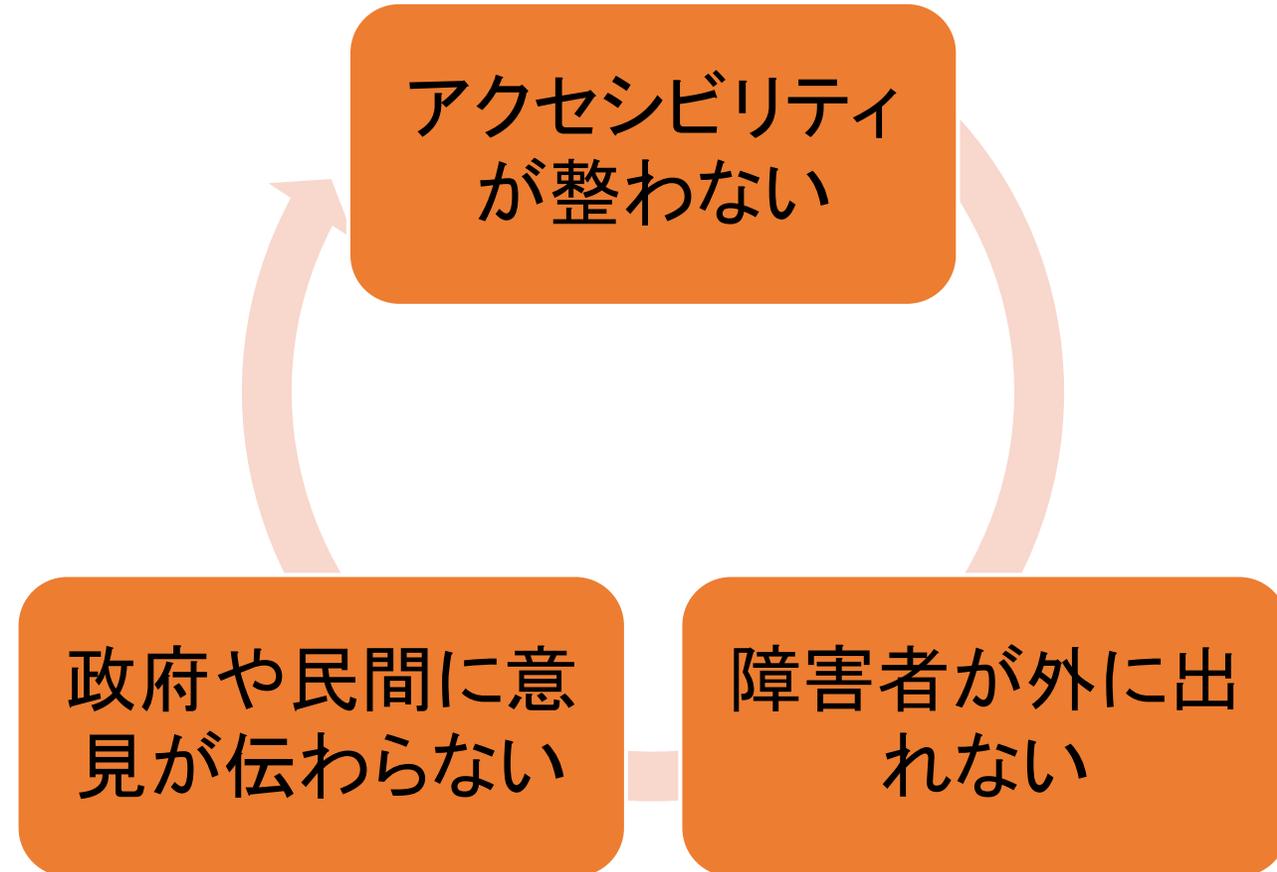


障害者の雇用状況

- 自営業のうちほとんどが裁縫・刺繍の商品だが、時間がかかる上に稼ぎにならない。
- 自分が専門で勉強してきた分野で働ける人が少ない。
- 障害者が企業に勤めた際、政府から支援がない。
- 就職の際企業からの希望条件（資格）が健常者目線で達成できない（障害者が学校に行けていないことも原因）。
- 日本のハローワーク（職業安定所）のような障害者が企業に就職するまでの繋がりを支援する施設・制度が少ない。
- 重度の障害者が働ける環境は無い。

アクセシビリティ

- 現状はまだまだ健常者が主体の世界
- 障害者の運動が強くなってきている。
- 例えば日本の国土交通省のような政府の関係者として、障害者が協力してバリアフリーチェックを行っている。



自立生活運動

- “Universal Progress” 自立生活センター、2010年3月設立
- 全ての障害者が障害の程度に関わらず、自立した生活が送れるように支援することを目的としている。



活動内容

- 介助サービス
- ピアカウンセラー活動(障害者による相談サービス)
- 健常者、障害者への研修活動
- 障害者自立の啓蒙活動
- バリアフリー社会への具体的指導と助言
- その他(モニタリング、アピール活動、権利擁護)



その他

- 法律・制度ができてても当事者に伝わらない。
- 運動に対しての政府からの支援が無い。
- 呼吸器を必要とする人や重複障害を持つ人は外出することもできない状況。

ありがとうございました。

ユニバーサルプログレス自立生活センター

メールアドレス; undrakhbayarc@gmail.com

携帯電話;976-99856665